

国際シンポジウム

『効果的・効率的外来種管理を目指して — 外来種対策の先進技術と管理戦略』の開催

北海道大学大学院
文学研究科地域科学講座

近年、外来種問題は生物多様性に大きな影響を与える問題として世界的にも注目されており、解決に向けての対応が急務となっています。日本でも「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が2005年に施行されて以降、各地で外来種対策が進められていますが、残念ながら一部の事業を除いては、成果を上げるには至っていません。そこで、世界で最も外来種対策が進んでいる国の一つであるニュージーランドの第一線の研究者にニュージーランドの最新外来種対策技術及び戦略に関して講演をいただき、今後の北海道・日本の外来種対策の在り方を考えるシンポジウムを開催いたしました。

最初の講演は Phil Cowan 博士による「Invasive Mammal Control and Eradication in New Zealand : ニュージーランドにおける外来哺乳類管理と根絶」で、ニュージーランドにおける外来種管理の現状についてアプローチや成功例、具体的な捕獲方法についての豊富な情報を分かりやすいスライドで説明しました。特に、過去半世紀で島嶼部における120



を超える外来種を根絶させた例や商業捕獲や近代機器等を利用した効果的な害獣管理手法および新しく開発される管理手法について詳しい話が聞けました。また、ニュージーランドにおける住民参加型手法として専門家だけではなく一般の人々からの情報収集と対応を効果的に進めるうえで有効なオンラインでの意思決定支援システムや外来種における動物の福祉の問題についてもニュージーランドなら

ではの先進的な取り組みが紹介されました。最後にニュージーランドは2050年までにポッサムやラット類、イタチ類などの外来害獣を完全根絶させることを目標にした” Predator Free 2050” プロジェクトが進められていることが紹介されました。

2つ目の講演では、Al Glen 博士による「Towards a Predator Free New Zealand : 外来種不在のニュージーランドを目指して」と題した、特に侵略的外来種の根絶に向けたこれまでの政策概要について紹介されました。ニュージーランドにおける侵略的外来種の影響や根絶の歴史、根絶の成果としての環境的側面や社会・経済的側面について、” Predator Free 2050” プログラムのほか、” Cape to City” プログラムや現在開発・研究が進んでいる新技術について分かり



やすく解説しました。侵略的外来種の影響については、在来種絶滅の一因になっていることや他の哺乳類に感染する病気の媒介、根絶することで在来種の回復が見込まれることをティリティリマタンギ島の多種多様な鳥類の繁殖成功例を紹介しながら話しました。その他、スコットランドにおける広大なエリアでのアメリカミンク根絶成功例やニュージーランド人物理学者 Sir Paul Callghan による外来種を取り除くことの重要性についての講義紹介、実用化が期待される遺伝子工学を用いた技術・罠、更には AI の活用について説明がありました。最後にこうした活動の最終目的として、在来野生動物の個体数や生態系機能の回復、それによる在来動物の福祉の充実についても説明がありました。

最後は北大の池田透教授による「Current situation and challenges in invasive alien raccoon control : 外来アライグマ管理の現状と課題」と題した講演で、日本には 2000 種を



を超える外来生物があり、中でも特定外来生物に指定されているアライグマに対する取り組みについて紹介がありました。アライグマは生態系や農作物へ被害を与えるため年々捕獲数が増加しているにも関わらず、個体数を減少させるほどの数が捕獲されてはいないため依然各地で被害を出し続けている外来生物であり、今後も継続的かつ効果的な捕獲と管理が必要なが分かりやすいグラフで示されました。最新の捕獲装置やモニタリングについても実際の動画や画像を提示しながら分かりやすく説明しました。また、All or Nothing になりがちな日本の対策についての問題点やニュージーランドにおいて効果的とされる一般の人たちによる目撃と通報、自治体の対応と専門家との協力体制をとる住民

参加型が早期発見・早期対応では大切であることを紹介しました。

後半のディスカッションにおいては、ニュージーランドやオーストラリアでは何が重要で大切なのかを考慮してリスクを検討したうえで優先順位をつけて対策を行っている点や、完璧な方法や道具がないことを前提に期待された効果の有無を確認・評価しながら改善していくこと、1つ成功例を出すことで社会的影響を大きくして次のステップにすることが大事であることなどが紹介され、日本の外来種対策への貴重なアドバイスとなりました。また、ニュージーランドでは政府系予算で AI を利用した最先端の技術開発が進められており、そういった最新技術が無料で提供されている実情も紹介されました。

まだまだ課題の多い日本の外来種対策ですが、本シンポジウムの成果が具体的な外来種対策の成果に結びつくよう、今後も研究を進めていきたいと考えております。